

令和5年度 学校評価シート（自己評価）

令和6年3月

文京学院大学文京幼稚園

1. 園の教育目標

- ・誠実（いきいき元気に遊ぶ子）
- ・勤勉（いっしょうけんめい頑張る子）
- ・仁愛（やさしく助け合う子）

2. 具体的な目標や計画（令和5年度重点目標）

1. 自分で考え行動できる力を育む
2. 人と関わる力を育む
3. 遊びや活動を楽しむことを通して“豊かな心”を育てる

3. 評価項目の取り組み及び達成状況

評価項目	結果	結果の理由（教員の記述より抜粋）
1 - ① 自分で興味を持ったことに積極的に取り組むことで満足感や達成感を持てるようにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・描画活動では子どもと一緒に絵具の用意をするなど、準備段階から活動に興味を持てるようにしていった。 ・繰り返し行えるよう、材料や活動日数を長く設けるようにした。 ・楽しんでいる姿を認め、一緒にあそびながら、出来たことや楽しいことを共有したり、共感したりしていった。 ・子どもの興味関心に合わせて継続して遊べるような環境を設定し、材料を準備した。
1 - ② 年齢に応じて、周囲の状況に気付き、その場にふさわしい行動ができるようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活に必要な決まりを、日常の中で3歳児に分かり易く言葉や動作で伝えていった。 ・保育者がこうするよと伝えるのではなく、どうしたらいいのかわかればよかったのかを皆で話し合うようにした。 ・状況を理解して行動することの大切さに気付けるように、クラス内で考える時間を設けた。 ・全てを言葉で伝えるのではなく、子ども達が考えて行動できるよう促した。 ・1年を通して声掛けや配慮を工夫してきたが、子どもによっては状況を理解して行動に移すことに課題があり、個別対応の難しさも実感している。
2 - ① 友達と関わる中で、様々な心情を経験し、人と関わる楽しさを感じられるようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・悲しいと感じることや悔しいといった気持ちも大切な経験と考え、寄り添い励まししながら、自分で気持ちが切り替えていけるよう関わった。 ・気の合う友達との関わりの中で、自分の思いを表出できるように必要に応じて仲介し、互いの思いを代弁するようにしていった。 ・一緒に遊びたいと思う気持ちを受け止めつつ、どのように関わっていけばいいのかわかを子ども達と共に考えていった。 ・子ども同士で関わる活動を多く取り入れたが、積極的に関わられる子どもとそうでない子どもとの差が大きく感じられた。
2 - ② 遊びの中で多様な関わりをしながら、様々な考えがあることに気付き、受け容れる気持ちを育てるようにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に遊ぶ中で嬉しい気持ちや嫌だった気持ちに寄り添い、相手にも同じ思いや違う思いがあること、いろいろな気持ちがあることを伝え、少しずつ理解できるよう援助していった。 ・遊びや生活の中で、自分の思いだけではなく相手にも思いがあることを伝え、お互いの思いを必ず聞くことを心掛けた。その上で、相手の思いが自分と異なった際にどうするのかを一緒に考えていくようにした。 ・様々な考えに触れることができるよう、話し合う機会も多く設けた。 ・1年間を通して、気の合う友達だけでなく、活動によってはクラスを超えて関わる機会を多く設けた。
3 - ① 一人ひとりの発想や思い、工夫する姿を受け止めたり、認めたりする。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・作った作品を飾ったり紹介したりする場を設け、周囲にも興味を持てるよう発信していった。 ・子ども達が自分の考えを自由に表現できるように、まずは遊びを制限することなく見守るようにした。その過程での子ども達の姿を声にし、認めていった。 ・発言すること、表現することには正解がないことを学年の教員で共通理解し、皆それぞれが認め合えるような雰囲気作りを心掛けた。
3 - ② 自分が感じたままに描画活動や身体表現する喜びを味わえるようにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・表現遊びでは、友達を真似てポーズをしたり、忍者や動物に変身して動きや声を出したりするなど、どのような発想も認め表現する楽しさを味わえるようにしていった。 ・子どもの表現することに評価はせず、受容し肯定的な言葉を掛け安心して表現できる環境を整えた。楽しい思いに共感して伸び伸び表現できるようにした。 ・間違えることに対して不安に思う子どももいるため、教材を工夫したり、子ども達がやってみたいと思えるような環境を作ったりした。

4. 教員自己評価結果及び本園の今後の課題

	項目	結果	評価結果及び課題（教員の記述より抜粋）
1	保育内容の工夫	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別ではなく、日頃生活している年中長児の姿を見たり他学年の保育者と関わったりすることで「知っている人や場所」が増え安心して過ごせるよう努めた。 ・生活する中で疑問や気付いたこと、思うようにいかないことを一緒に考えたり、皆で共有したりする時間を作ったことで、いろいろな考えに触れられるようにした。 ・遊びの様子や経験を踏まえて、子ども達はその物に慣れ親しみ、使いこなせるようになるまで、試行錯誤し素材が無駄になることがあっても様子を見守ってきた。 ・「例年やってきた事」ではなく、今年度の子どもの達の特質や成長に合わせた内容を取り入れてきた。子ども達は負担なく取り組み楽しんでいった。
2	環境構成の工夫	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもがやってみたいと思ったことが直ぐに形に出来るように材料を揃え、主体的に取り組めるよう過度な提案や援助にならないよう対応し、試行錯誤しながら作り上げ満足感に繋げていった。 ・遊びの環境を常に同じ配置にするのではなく、状況を見て変えていった。やりたい遊びに応じて、子どもが自分で物を動かしながら環境を作っていくことの楽しさを今後も感じられるよう配慮していききたい。
3	幼児への対応 (幼児の理解)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや製作、表現等において自由な発想を認め、何事にも構えず行えるような雰囲気を作っていった。 ・担任と個々に合わせた目標を共有し、やってみようとする気持ちを大切にしたい。 ・子ども達の思いを受け止める際に、あまり否定的な言い回しや言葉は使用せず、どのような言葉であっても自分の思いが伝えられたことを褒めるようにしてきた。 ・発達段階で、プライドや羞恥心等複雑等、成長してきた事で芽生えてくる複雑な感情にも配慮し対応をし、担任とも必ず情報を共有してきた。
4	保護者への対応	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保育後の園庭開放（ゆとりに時間）や降園時に、子どもの成長や良い所を伝えると共に、話し易い雰囲気づくりを心掛けた。 ・なるべく多くの保護者に話しかけるよう心掛けたが、個人差が出てしまうことがあった。 ・挨拶を交わす際は、他に一言を添えるようにし、コミュニケーションをはかった。
5	研修と研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研究では、5年掛けて取り組んできた「新教育課程」の作成が完成となりそれを基に、今年度より保育計画を立案し実践している。また、同時に「保育ドキュメンテーション」研修を継続し、今年度は「幼児期に育てたい10の姿」に照らし合わせ事例を考察し、本園の保育についての新たな課題に気付くことができた。 ・研修では、各教員が興味関心のあるテーマに沿って研修に参加すると共に、全体では夏に救命救急継続講習を、冬に本園育児カウンセラーの先生による研修に併設園の教員と共に参加し、多様な学びを重ねることができた。
6	安全管理	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナが第5類となったことに伴い、他園の実践事例を参考にすることや、園医の指導も仰ぎながら過度な感染対策は緩やかにし行事の運営を行ってきた。 ・避難訓練、防犯訓練は例年通りの実施案ではなく、視点を変え、どのような緊急時にも備えられるようにしてきた。 ・本学院施設課と協力し、防犯カメラ設置、園内の照明の新設等、園内環境整備の対応や改善に努めた。
7	職場環境 学年チームの 関わり	C	<ul style="list-style-type: none"> ・学年内の雰囲気も大切であるが、他学年同士でも協力できる場面では、声を掛け合って互いに助け合える関係を築いていきたい。 ・短期離職者を出さないための園務の見直し（残すべきものと削減してくもの）と時間を有効活用するための教員全体の意識改革。 ・3学期より、週一回園内の強制消灯を実施し、効率よく且つ終業意識が持てるよう実践。

○結果について

A	十分達成されている。
B	達成されている。
C	取り組まれているが、成果が十分でない。
D	取り組みが不十分である。

5. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者アンケートの結果と、教員各個人の自己評価から、おおむね目標は達成できていると考えられる。「重点目標」を達成するための具体的な取り組みについては、各学年の子どもの発達段階も踏まえ丁寧な取り組みを行ってきた。しかし、単に幼いことや、経験不足による内面の未発達ではなく、抱えている特性が要因になっている子どもが増えてきていることもあり、保育の困難さを抱える教員もいる。園内の教員間の協力だけでなく、今後も本園育児カウンセラー（増田先生）等、発達の専門家にもサポートをしていただきながら対応をしていく必要を強く感じる。 ●重点目標の「自分で考え行動できる力を育む」「人と関わる力を育む」では、学年に関わらず教員は一方向的に教授するのではなく、子どもの気持ちをまずは肯定的に受容することから始め、教員が共に考える、時にはクラスや集団に投げかけ、個々の子どもがまたは子ども同士で規範意識や人と関わるために必要なことを考える機会を意図的に設定してきた。スピードを求めることが多い現代だが、非認知能力を育てる幼児期は、あえて時間をかけ考えることを厭わない体験を日々重ねていくことが大切であると考える。 ●5年かけて実施してきた「新教育課程」は一応の完成に達し、指導計画立案時に活用している。ただし、時間の経過と共に教員体制も変化し、立案時からの教員と、新しく着任した教員との意識の差を埋めていくことが課題となる。また、保育を実践しながら、新教育課程の検証を重ねていきたいが、本園教員だけでは困難であるため、併設大学等の幼児教育識者の指導を仰ぐ必要も感じている。昨年から継続している「保育ドキュメンテーション」の研修では、各学年の事例を、「幼児期に育てたい10の姿」に照らし合わせ意見交換をすることで、教員一人ひとりが子どもの育ちや保育者の役割について省察を通し、保育理解を深めることができた。他学年の保育を共通理解する他に本園の保育を単に自己満足で終わらせるのではなく、新たな課題（社会生活との関わり不足）に気付くことができた。 ●保護者対応については、昨年度に引き続き降園後の「ゆとりの時間」を利用し、保護者とコミュニケーションを図ってきた教員が多数であった。しかし、学年によっては登降園時に顔を合わすことができないことが続く保護者や、学年問わず保護者の就業により、どうしてもまんべんなく話しかけることが難しく、コミュニケーションの取り方に課題を感じている教員もいる。また、子どもの良い所は伝えやすいが、課題となる点、トラブルの伝え方には躊躇してしまう教員もおり、対応が後手に回ってしまうこともあった。経験年数に関わらず教員にも保護者への対応に構えてしまう実態がある。新卒教員の存在も含め、今後は保護者対応のスキルアップ研修を再度受けることも考えていきたい。 ●昨年度に引き続き、職場環境について、継続して取り組んでいるものの、働き方が改善されない。仕事の適切な限度ライン（どの教員でもやり遂げられる）を意識し、実践していける教員集団を組織する必要がある。3学期より週一で強制的に園に残れないルールを設けてきた事がそれなりの効果を出しているため、次年度は更に日数を増やす取り組みを行っていききたい。また、教員間のコミュニケーションは大切であるが、保育後から退勤時間までの限られた時間を有効に活用できていない点に課題がある。今後はキャリアのある教員がモデルとなって、休憩時間と実務時間のけじめを意識した仕事の仕方ができるように意識改革をしていく必要と思われる。

6. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
① 「人と関わる力」「豊かな心」を育てるためにさらに保育活動を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、子どもが「人と関わる楽しさ」を感じられるように、「人にはそれぞれの気持ちや考えがあることに気付き、受け容れられるように」を意識して一年間保育を進めてきたが、これは継続して行いたい。さらに「幼児期に育てたい10の姿」の中で、「社会生活との関わり」については、今年度の園内研究により、不足しているとの意見が共通であった。来年度は、どのように育てていくのかを考え、保育実践を行っていくことが、さらに豊かな心に繋がると考える。
② 文京学院創立100周年、文京幼稚園70周年を祝う気持ちを持つ	<ul style="list-style-type: none"> ・3月にはプレアニバーサリーとして「ピクチャーブックヒーリング」に親子で参加（鑑賞）したが、10月の創立記念日に向けて園でも様々な取り組みをしていく。年齢に応じて、周年の意味を理解し、皆で祝う気持ちを持てるようにする。
③ 幼稚園ならではの魅力が外部の方に伝わるように様々な方法を試行する。	<ul style="list-style-type: none"> ・これから入園を検討する家庭に対して、文京幼稚園ならではの魅力が少しでも伝わるように、現保護者の声も聞きながら、具体的に発信していく。「にこにこタイム」（プレ幼稚園&ミニ説明会）も2年目を迎える。幼稚園だからこそその魅力が最大限に伝わるようにしていく。
④ 職場環境を見直し、働きやすい環境を作っていく	<ul style="list-style-type: none"> ・教員同士が互いを尊重し、不足していることも補い合える職場を作っていくことが必要である。資質向上を心がけていくことは大切であるが、まずは「働きやすい職場」作りを目指すことが必須であり、“ゆっくり育てていく”心構えを全員で持てるようにしていきたい。